

平成29年度版



社会知性の開発をめざす

**専修大学**

文部科学省  
私立大学戦略的研究基盤形成支援事業  
(平成26年度～平成30年度)

---

# アジアにおける ソーシャル・ウェルビーイング 研究コンソーシアムの構築

---

専修大学社会知性開発研究センター  
ソーシャル・ウェルビーイング研究センター

研究代表者:原田博夫  
専修大学経済学部教授

# 研究の目的・活動

## ① 研究目的

この研究プロジェクトは、(1) 東アジアおよび東南アジアにおけるソーシャル・ウェルビーイングの現状と規定要因を、調査票(アンケート)による国際比較調査を行うことによって明らかにするとともに、(2) この地域の大学や研究機関からなる国際的な研究コンソーシアムを構築し、ソーシャル・ウェルビーイングや関連するテーマを将来にわたって協働的に研究していくための基礎を築くことを目的としています。

ウェルビーイング(幸福)あるいは生活の質は、アリストテレス以来の社会科学における中心的なテーマのひとつです。ウェルビーイングは、単に所得や就労状態や学歴といった個人個人の社会経済的地位にのみ関係するものではなく、家族や近所づきあいのような社会関係や、政治体制や宗教といった社会制度によっても影響されます。よってこの研究プロジェクトでは、単なる個人的なウェルビーイングではなく、社会的なウェルビーイング、すなわちソーシャル・ウェルビーイングという概念に立脚し、経済学や社会学や政治学を中心とする社会科学における学際的アプローチを用いて、理論と実証の両面からその姿を明らかにしていきます。

東アジアおよび東南アジアは、このテーマを研究する際に学術的に重要な地域です。なぜなら、第一にこの地域は経済水準、政治体制、民族、文化、宗教等においてきわめて多様です。第二に、にもかかわらずこの地域は、近代化への過程を歩み出す時期が遅かったためにその速度が急速であるという歴史的経緯を共有しており、それゆえにグローバル市場経済の進展の中で持続可能な経済発展をいかに実現していくか、急激な少子高齢化の中で社会保障制度をいかに持続可能にしていけるか、といった21世紀における多くの課題を共有しています。したがってこの研究プロジェクトは、これまでとすれば欧米中心的な視点から研究されてきたソーシャル・ウェルビーイングに対する理解をアジア地域の視点から拡張し深めることを通じて、国際的な社会科学の世界に対して新たな学術的貢献をすることができるでしょう。

## ② 研究活動

この研究プロジェクトでは、主に以下の活動をしています。

### (1) 国際比較調査

ソーシャル・ウェルビーイングに関する調査票調査、すなわち「ライフスタイルと価値観に関する国際比較調査」を、東アジア・東南アジアの7つの国・地域で行います。これらの調査は国際比較を意図して設計されており、主要な設問はすべての国・地域で共通しています。標本サイズは1,000~10,000ケース程度であり、回答者はそれぞれの国・地域で全国から選ばれています。

### (2) シンポジウムおよびコンファレンス

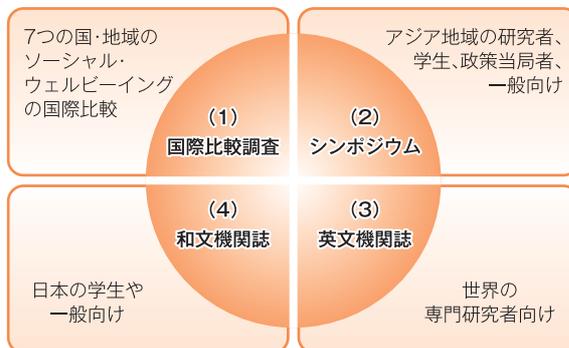
シンポジウム(日本で開催する場合)およびコンファレンス(海外で開催する場合)を開催し、このプロジェクトの研究成果を研究者や学生、政策当局者、一般聴衆に発信します。2016年度以降は毎年2回のペースで開催します。

### (3) 英文機関誌

英文機関誌 *The Senshu Social Well-being Review* を毎年1回刊行し、ソーシャル・ウェルビーイングに関する最先端の研究成果を、世界中の専門研究者に発信します。この機関誌は専修大学学術機関リポジトリ(SI-Box)でもオンライン公開されますので、世界中の人が無償で読むことができます。

### (4) 和文機関誌

和文機関誌『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』も毎年1回刊行されます。こちらは主に日本の大学生や大学院生と一般の人びとに向けて、ソーシャル・ウェルビーイングについてどのように考えていけばよいのかをわかりやすく伝えることを目的としています。和文機関誌も無償でオンライン公開されます。



プロジェクトの研究成果はこれら以外にも、世界中で開かれるさまざまな学問分野の国際学会や、国際的な査読つき学術誌でも精力的に発信されています。詳しくは研究業績(英語版)を参照してください。

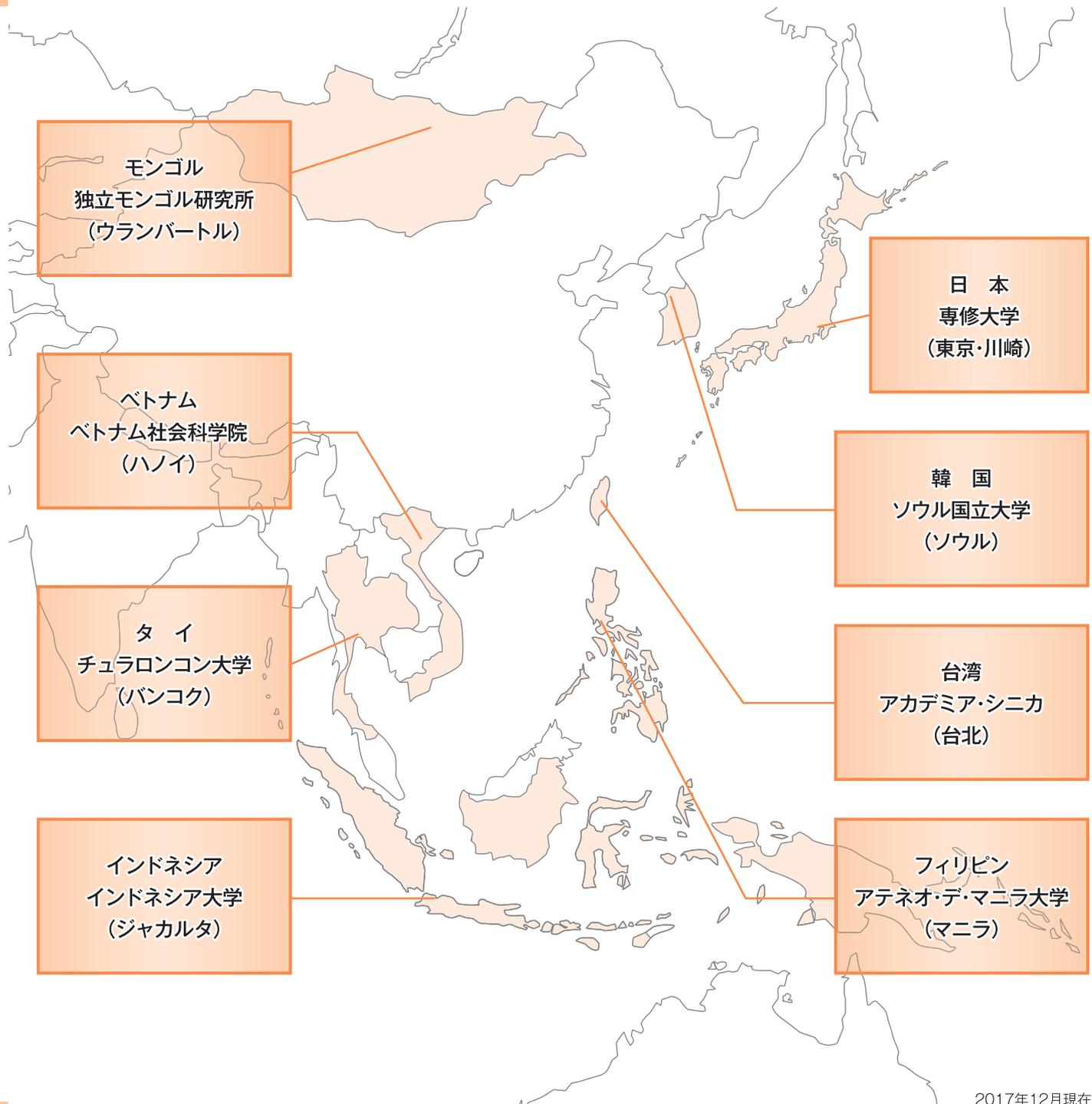
# 研究活動

	2014年度	2015年度		2016年度	2017年度	2018年度
国際比較調査	日 本	韓 国 ベトナム		フィリピン タイ	インドネシア 台 湾	
シンポジウム・ コンファレンス	第1回 シンポジウム 2014年 12月6日 専修大学神田校舎 (東京)	第2回 シンポジウム 2015年 11月28日 専修大学神田校舎 (東京)		第3回 シンポジウム 2016年 6月25日 専修大学サテライト キャンパス(川崎)	第2回 コンファレンス 2017年 10月12日～13日 ベトナム社会科学院 (ハノイ)	第4回 コンファレンス 2018年 6月28日～30日 ソウル国立大学 (ソウル)
		第1回 プロジェクトセミナー 2016年 2月17日～19日 専修大学富士山中湖 セミナーハウス(山梨)		第1回 コンファレンス 2017年 3月9日～10日 チュラロンコン大学 (バンコク)	第3回 コンファレンス 2018年 3月4日～6日 ฟากานาหาริเท-สิคอนพะชันนักร- (マグララン・インドネシア)	第4回 シンポジウム 2018年 11月23日～25日 専修大学生田校舎(川崎) 専修大学神田校舎(東京)
<i>The Senshu Social Well-being Review</i> 【英文機関誌】	1号 (2015年3月)	2号 (2016年3月)		3号 (2016年9月)	4号 (2017年12月)	5号 (2018年12月)
ソーシャル・ ウェルビーイング 研究論集 【和文機関誌】	1号 (2015年3月)	2号 (2016年3月)		3号 (2017年3月)	4号 (2018年3月)	5号 (2019年3月)

実施予定

2017年12月現在

# コンソーシアム組織図



# ソーシャル・ウェルビーイング 研究センター

	氏名	所属	研究関心
研究代表	原田 博夫	経済学部教授	財政学、公共選択論
研究推進責任者	嶋根 克己	人間科学部教授	社会意識論
事務局長	金井 雅之	人間科学部教授	社会階層とライフコース
ポスト・ドクター	矢崎 慶太郎	ソーシャル・ウェルビーイング 研究センター ポスト・ドクター	芸術の社会学
<b>経済・ビジネス研究</b>			
研究員	神原 理 <チーフ>	商学部教授	ソーシャル・ビジネス
	大橋 英夫	経済学部教授	アジア経済、開発経済学
	鈴木 奈穂美	経済学部准教授	生活経営論
客員研究員	中村 知子	茨城キリスト教大学兼任講師	文化人類学 地域研究(モンゴル、中国西北部等)
	山本 耕資	Hylab LLP	政策選好と政治過程
<b>ソーシャル・リスク・マネジメント研究</b>			
研究員	大矢根 淳 <チーフ>	人間科学部教授	災害の社会学
	小池 隆生	経済学部准教授	雇用・社会政策論
	徐 一睿	経済学部准教授	財政学、政府間財政関係、中国経済
客員研究員	丸茂 雄一	専修大学兼任講師	危機管理
	中村 虎彰	明治大学大学院兼任教員	自治体・公会計論、公共経営論
	張 光雲	中国四川師範大学法学院教授	刑法・刑事政策
	芝井 清久	情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設 社会データ構造化センター 特任助教	国際関係論
<b>ソーシャル・キャピタル研究</b>			
研究員	飯沼 健子 <チーフ>	経済学部教授	発展途上国研究
	村上 俊介	経済学部教授	市民社会論
	稲田 十一	経済学部教授	国際協力論
客員研究員	鷲見 英司	新潟大学准教授	地方財政論・地域経済論
	田中 康裕	専修大学兼任講師	社会情報学
	宮川 英一	専修大学社会科学研究所客員研究員	移民史研究
	大崎 裕子	専修大学兼任講師	近代化と社会的態度、信頼
	小林 盾	成蹊大学文学部現代社会学科教授	社会的な不平等・家族・主観的ウェルビーイング
	稲垣 佑典	情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設 社会データ構造化センター 特任助教	一般的信頼
<b>学外共同研究者</b>			
客員研究員	林 玄鎮	韓国科学アカデミー会員	
	ダン グエン アイン	ベトナム社会科学院 副院長	
	チャン クアン ミン	ベトナム社会科学院 東北アジア研究所・所長	
	スリチャイ ワンゲーオ	タイ・チュラロンコン大学 平和紛争研究所・所長	

## 日本語での主な研究業績

2017年12月現在

※英語での研究業績は英語版ページを参照。

### (1) 論文

#### ◆2014年

- 大矢根淳, 「地域レジリエンスの向上と事前復興」『労働の科学』69(4): 206-09.
- 大矢根淳, 「生活再建・コミュニティ復興に寄り添う——長期にわたる社会的被災地研究」木村周平編『災害フィールドワーク論』古今書院, 113-29.
- 神原理, 「川崎市における市民のコミュニティ意識とソーシャル・キャピタル」『公益学研究』14(1): 11-22. [査読有]

#### ◆2015年

- 大矢根淳ほか, 「宮城県石巻市における仮設住宅団地の生活実態——東日本大震災発生から1年半後のコミュニティに着目して」『農村計画学会誌』34(2): 167-76.
- 大矢根淳, 「現場で組み上げられる再生のガバナンス——既定復興を乗り越える実践例から」清水展編『新しい人間、新しい社会——復興の物語を再創造する』京都大学学術出版会, 51-78.
- 大矢根淳, 「小さな浜のレジリエンス——東日本大震災・牡鹿半島小湊の経験から」清水展編『新しい人間、新しい社会——復興の物語を再創造する』京都大学学術出版会, 267-98.
- 金井雅之, 「ソーシャル・ウェルビーイング研究の課題」『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』1: 7-22. [査読有]
- 神原理, 「川崎市民の地域意識と生活満足度」『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』1: 23-38. [査読有]
- 矢崎慶太郎, 「ウェルビーイングの一指標としての芸術」『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』1: 51-61. [査読有]

#### ◆2016年

- 稲田十一, 「ベトナムにおけるソーシャル・セーフティネット(SSN)——「共同体的扶助制度」と「市場化の波」の南北比較」『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』2: 55-73. [査読有]
- 大崎裕子・坂野達郎, 「道徳的信頼の形成における制度的校正と社会的平等の役割」『計画行政』日本計画行政学会39(2): 56-64. [査読有]
- 大矢根淳, 「サステナブル(sustainable)な防災社会構

築のための新基軸——コミュニティにおけるレジリエント(resilient)な取組事例をめぐって」『専修大学社会科学研究所月報』641:3-13.

小塩隆士, 「ソーシャル・キャピタルと幸福度——理解をさらに深めるために」『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』2: 19-33. [査読有]

嶋根克己, 「近代化する葬儀の諸課題——ベトナムと日本の比較から」『専修大学社会科学研究所月報』641:23-33.

白石小百合・白石賢, 「幸福の経済学——現状と課題から次のステップへ」『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』2: 35-53. [査読有]

原田博夫, 「「幸福」研究の意義と可能性」『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』2: 7-18. [査読有]

村上俊介, 「日本におけるベトナム研究の視座の変遷」『専修大学社会科学研究所月報』641:14-22.

#### ◆2017年

大崎裕子, 「ソーシャル・キャピタルは主観的ウェルビーイングにおける経済的豊かさの限界を補完するか——満足と信頼の分析」『理論と方法』32(1):35-48. [査読有]

大矢根淳, 「被災地ローカル各紙統合スクラップ帳の意義と課題——復興ロジックの探索・再構築に向けて」『法学研究』慶應義塾大学法学研究会90(1):229-259.

大矢根淳, 「ベトナム中部村落における水害からの復興の履歴と枠組み」『専修人間科学論集』7:89-108.

大矢根淳, 「ベトナムの都市化と居住環境構制——ドラスティックな変容の実相を読み解く視角」佐藤康一郎編『変容するベトナムの社会構造——ドイモイ後の発展と課題』専修大学出版局.

大矢根淳, 「マルチステークホルダーの参画する防災まちづくりの物語創成」『労働の科学』72(12):in press.

金井雅之, 「過去との比較が主観的ウェルビーイングに与える影響——過去の影響は時間の経過と共に薄れるか」『理論と方法』32(1):127-139.

金井雅之, 「日本・韓国・ベトナムにおける幸福度の比較——ソーシャル・ウェルビーイング研究の現場から(1)」『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』3:53-67. [査読有]

小池隆生, 「現代日本における相対的貧困——困窮の諸相に見る『貧困の幅』」『専修大学社会科学研究所月報』645:38-50.

嶋根克己, 「Katu族の棺」『専修大学社会科学研究所月

報』642・643:51-56.

嶋根克己,「変貌するベトナムの葬送文化」佐藤康一郎編『変容するベトナムの社会構造——ドイモイ後の発展と課題』専修大学出版局.

原田博夫,「ダナン市の経済開発と外資導入」『専修大学社会科学研究所月報』642・643:42-45.

丸茂雄一,「日本人の生活満足度の決定要因に関する実証的分析」『公益学研究』16(1):21-30.

矢崎慶太郎,「信頼——社会学の基礎前提とソーシャル・ウェルビーイング調査結果の検討」『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』3:9-31. [査読有]

## (2) 図書

### ◆2017年

稲田十一,『社会調査からみる途上国開発——アジア6カ国の社会変容の実像』明石書店.

大矢根淳・石原慎士他編『産業復興の経営学——大震災の経験を踏まえて』同友館.

## (3) 学会報告

### ◆2014年

神原理,「川崎市における市民のコミュニティ意識——web調査と自主防災組織への調査から」地域活性化学会,京農業大学オホーツクキャンパス,2014年7月. [査読有]

大矢根淳,「原発防災体制の構造的欠陥を乗り越えようとする減災サイクル論は成り立つか?——「UPZ:30km圏の避難(認知行動→生活)」をめぐる」地域社会学会,早稲田大学,2014年5月.

### ◆2015年

大矢根淳,「復興—防災」連関に参画する災害社会学の研究実践——岩手県大槌町安渡町内会における津波防災計画づくりをめぐる」日本社会学会,明治学院大学,2015年3月.

金井雅之,「領域別不公平感の規定メカニズム再考」数理社会学会,久留米大学,2015年3月. [査読有]

金井雅之,「主観的幸福度に対する橋渡し型・結束型社会関係資本の複合効果」数理社会学会,大阪経済大学,2015年8月. [査読有]

金井雅之,「ソーシャル・キャピタルとソーシャル・ウェルビーイング」専修大学ソーシャル・ウェルビーイング研究センター シンポジウム,専修大学,2015年11月.

鷲見英司,「幸福度と地域要因」専修大学ソーシャル・ウェルビーイング研究センター シンポジウム,専修大学,2015年11月.

矢崎慶太郎,「日本調査の概要と主な知見」専修大学ソーシャル・ウェルビーイング研究センター シンポジウム,専修大学,2015年11月.

### ◆2016年

嶋根克己,「近代化する葬儀——ベトナムと日本の比較から」ベトナム社会科学院東北アジア研究所主催 日越国際シンポジウム,ベトナム社会科学院,2016年9月. [招待講演]

矢崎慶太郎,「ジェンダーギャップと幸福度——労働時間と家事労働の比較から」社会政策学会ソーシャル・キャピタルワークショップ,日本大学,2016年3月.

山本耕資,「連続型所得分布での近似による政策選好の把握——所得変換関数と最低所得水準」数理社会学会,上智大学,2016年3月. [査読有]

山本耕資,「所得平等化政策に関する選好の計測と分析」日本応用数理学会,政策研究大学院大学,2016年12月. [招待講演]

### ◆2017年

大崎裕子,「一般的信頼は主観ウェル・ビーイングをどのように高めるか——媒介効果の検討」数理社会学会,関西大学,2017年3月. [査読有]

神原理,「コミュニティ意識や信頼にもとづく幸福度分析」地域活性化学会,島根県立大学,2017年9月. [査読有]

鈴木奈穂美,「介護者の幸福度研究は介護者支援施策につながるのか」経済統計学会,法政大学,2017年9月. [査読有]

原田博夫,「日韓の幸福感——アンケート調査「ライフスタイルと価値観」から」統計研究会財政班・アジア成長研究所共催 コンファレンス,北九州市,2017年1月.

矢崎慶太郎,「社会的多様性が主観的幸福に結びつく条件——コミュニティか社会的関心か」日本社会学会,東京大学,2017年11月. [査読有]

# 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業は、私立大学が、各大学の経営戦略に基づいて行う研究基盤の形成を支援するため、研究プロジェクトに対して重点的かつ総合的に補助を行う事業であり、それによってわが国の科学技術の進展に寄与することを目的として、平成20年度から実施されています。

## 専修大学 社会知性開発研究センター

専修大学は、21世紀のさまざまな社会課題の解決に貢献し、合わせて自己実現を図っていく人に求められるもの、それは「社会知性(Socio-Intelligence)」であると考え、21世紀のビジョンとして「社会知性の開発」を掲げています。このビジョン実現のために「大学院社会知性開発研究センター」を平成15年2月に設置しました。その後、平成18年4月には活動の拠点を大学院に限定することなく、大学全体で動かしていく必要があるとの認識から、大学院組織から全学的組織に改め、「社会知性開発研究センター」と改変し、国際社会に対応し得る学術・文化の幅広い分野における専門的、学際的な総合研究・教育活動を推進しております。

## 専修大学社会知性開発研究センター ソーシャル・ウェルビーイング研究センター

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1 (生田校舎3号館)

TEL 044-911-1347 FAX 044-911-1348

<http://www.senshu-u.ac.jp/swb/>

E-mail:socio@acc.senshu-u.ac.jp